

330 臨時地本大会を成功させよう!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

激動の80年代を闘う方針・体制の確立を!

3月30日、13時~ 千葉市・教育会館

われわれは、動労革マルと一部反動分子に引き廻された中央本部の不当な「執行権停止」発動を完全に粉碎し、3・25三里塚現地集会を全支部から三五〇名というかつてない大動員をかちとった。これは、3・19、20において、全支部全組合員が総決起し、革マルと一部反動分子の千葉地本破壊オルグを粉碎し、撃退し、勝利した力をバネとしてかちとられたものである。われわれは、こうした3・19、20、3・25を闘い抜いた力をもって歴史的な第三三回臨時地本大会を圧倒的にかちとり、動労の大改革に向けた方針を決定し、激動の八〇年代に向けた闘う方針を確立しようではないか。

―革マルと一部反動分子の「方針」は、翼賛運動への道!―

革マルと一部反動分子は、激動の八〇年代を戦闘的に闘う展望と方針を何んら示すことが出来ず、八〇年代を「冬の時代」と規定し、

- ①、動労運動の中心軸に「水本」―「反謀略」運動をすえ。
- ②、三里塚闘争を権力の内部抗争―それにあやつられた者同士の破壊活動ときめつけ。
- ③、貨物安定輸送一貨物列車をストライキや順法闘争の対象としない―宣言。
- ④、富塚総評事務局長の国鉄内五組合の統合提案に対し、本部・青木書記長の「機は熟していないが、検討したい」なる発言。

このような徹底した右翼的・体制内翼賛運動へと動労運動を変質させつつある革マルと一部反動分子は、これに反対する者に対し、暴力支配と引き廻しを行ってきたが、今や、逆に全国の良心的戦闘的組合員、活動家からますます孤立化している。

―せまりくる大合理化攻撃と既成労働運動の体制内化―

長期不況と深刻な経済危機に直面する支配階級は、この危機の切り切りのために全産業において首切り、合理化、賃下げなどありとあらゆる形の犠牲を労働者・大衆に押しつけている。

とりわけ、国鉄においては、労使安定路線の一定のしんとうと成果の上に、森山発言をはじめとする相次ぐ運輸省発表にみられるように、五年間で一〇万人の削減などという大合理化攻撃が準備されている。

さらに政府は、三里塚空港の二期工事年内着工を宣言し、農業を破壊し、農地をとり上げ、農民を抹殺し、海外侵略のための空港をなんとしても完成させようとしている。

こうした政府・支配階級の危機の切り切りのため「国鉄内五組合の統合」提案にみられるように、労働運動がますます体制内化、右翼化を深めている。

―第三三回臨時地で激動の八〇年代にむけて、闘う方針を確立しよう!―

こうした厳しい情勢の中で、激動する八〇年代を闘う方針こそ、2・10臨時地で打ち出した「水本」脱会、「貨物安定輸送宣言」廃棄、「労農連帯・三里塚・ジェット闘争貫徹」「組合民主主義」の中にあると確信する。

動労が直面する革マルと一部反動分子の私物化を引き廻し、変質と暴力支配は、もはや四万八千組合員にとって全くたえがたい問題となっている。われわれは、第三三回臨時大を圧倒的に成功させ、激動の八〇年代に向かって、動労運動の再生をはかり、四万八千組合員の進むべき道を指し示す闘う方針を確立しよう!

そんな右翼路線で労働者の利益を守れる? 国・動労、組織統一を

3月21日 朝刊 富塚総評事務局長が提唱 今春闘後に懇談会を設置



富塚事務局長

「カール・マルクス問題に一致してきたため、鉄賃、全働賃、全働労も、舎めた国鉄関係主要五組合の統合の必要性も訴え、将来は全連と全郵政の組み合せなど他の官公労の組合も組織統一の論を広げたい」としている。

この統一への動きのなかで、動労一全働賃、全働労一全働賃のプリッジ方式の統一を先行させることを検討したいとする。一方、この富塚提案に対し、大の単座の国労は「五組合が同一のテーブルにつくことを提唱してきた立場から、富塚提案を評価する。当面は鉄賃を除く四組合で統一すべきだが、鉄賃も統一すべき」としている。

「貨物安定宣言」を「時代論の行きつく先」は、正に「右翼的産業」を「報国会組合」の「根拠」と